

2018年5月17日
凸版印刷株式会社

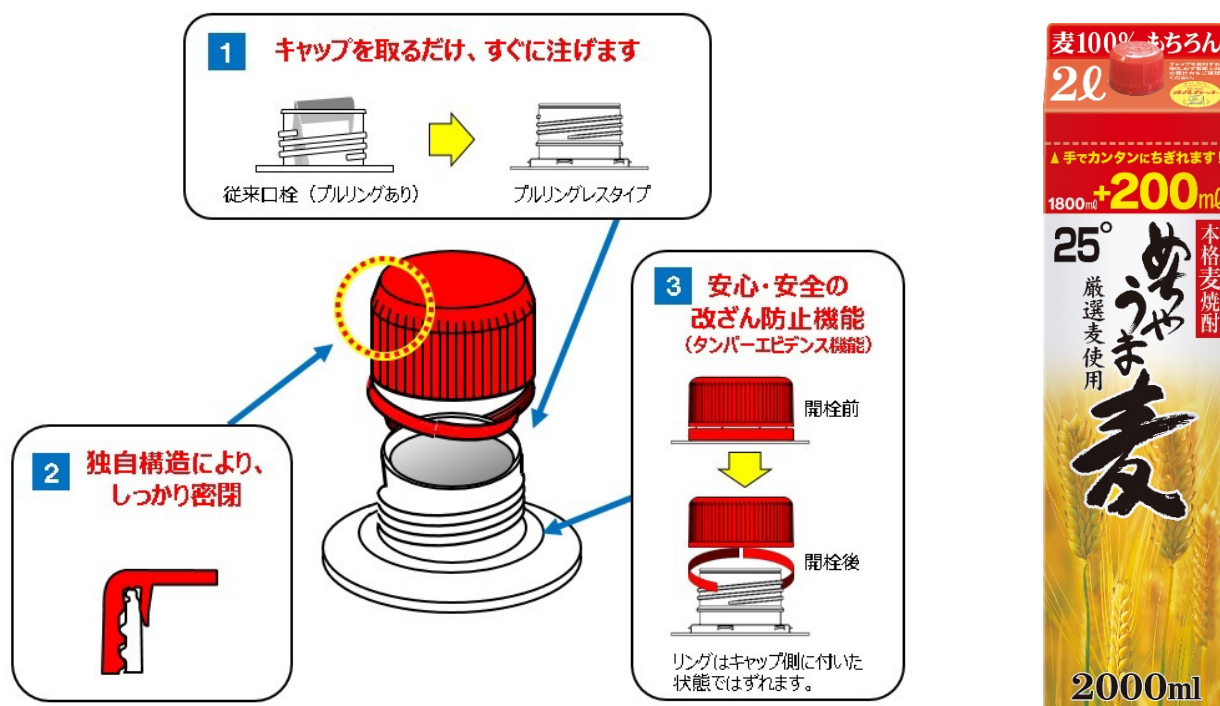
凸版印刷のバリア紙パック、ワンアクションで簡単開封
凸版印刷が展開するバリア紙パック「EP-PAK」で
中栓がなくても密封性を保持できる新口栓「プルレスキャップ」を開発

凸版印刷株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:金子眞吾、以下 凸版印刷)は、バリア紙パック「EP-PAK(イーピーパック)」で、中栓がなくても密封性を保持できる新口栓「プルレスキャップ™」を開発しました。飲料や酒類業界向けに、2018年5月下旬より本格的に販売を開始します。

「EP-PAK」は凸版印刷が開発した口栓付き液体用紙製容器で、内容物の保護性に優れ、常温での長期保存が可能です。清酒や焼酎などの飲料はもちろん、業務用ヘアケア剤やカー用品など、幅広い分野での採用実績があります。

今回開発した新製品「プルレスキャップ」は、独自開発の構造設計により、プルリング形状の中栓なしでも密封性を保持できる口栓です。中栓がないため、キャップを回して外すだけで開封できます。また、開栓状況が目視で確認可能なタンパーエビデンス機能や開封時に手が滑りにくく開けやすい独自形状を導入するなど、利用者の利便性が向上しました。

なお本製品は第一弾として、鷹正宗株式会社(本社:福岡県久留米市、代表取締役社長:佐藤司)が2018年5月下旬から販売する本格麦焼酎「めちやうま麦 2L パック」で採用が決まっています。



「プルレスキャップ」の構造(左)と、「プルレスキャップ」が採用された「めちやうま麦 2L パック」(右)

■ 開発の背景

超高齢化や個食・中食需要の増加、家事負担の削減など、生活者のライフスタイルは年々変化しています。そのような社会環境の中、製品の一部となるパッケージにも、内容物の鮮度維持や長期保存性などの機能だけでなく、ユーザビリティの向上が求められています。

凸版印刷が開発・提供するバリア紙パック「EP-PAK」は、このようなニーズに応えた製品として、常温での長期保存を必要とする製品に幅広く採用されています。しかし中栓を開けるには強い力が必要なため、現在の鮮度保持は維持しつつ、より簡便な開封方法が求められていました。

今回この「EP-PAK」で、中栓がなくても内容物が漏れにくい新口栓「プルレスキャップ」を開発。環境適性に加え、ユーザビリティが向上しました。

■ 「プルレスキャップ」の特長

・キャップを取るだけですぐに注げる

プルリングのような従来の中栓を取る手間がなく、キャップを取ればすぐに注ぐことができます。

・独自構造でしっかり密封

独自構造により口栓とキャップの噛み合わせを強化、高い密封性を確保しており、液漏れの心配がありません。

・安心・安全の改ざん防止機能

開封するとキャップ側のリングが切れ、キャップ側に一部ついた状態ではずれるため(タンパーエビデンス機能)、目視で開栓を確認できます。

・開けやすいキャップ形状

キャップにあるすべり止め用の凹凸について、その高さや数量を変えることで開封時の滑りを防止。開けやすさが向上しました。

■ 価格

EP-PAK の従来口栓と同等の価格を維持しています。

■ 今後の目標

凸版印刷は今後、本製品を清酒や焼酎などの酒類業界はもちろん、飲料業界などにも拡販。2018 年度に約 2 億円の売上を目指します。

* 「プルレスキャップ」は凸版印刷株式会社が商標登録出願中です。また関連特許・意匠も出願中です。

* 本ニュースリリースに記載された商品・サービス名は各社の商標または登録商標です。

* 本ニュースリリースに記載された内容は発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。

以 上